

# ネパールで40億受注

## 灌漑2件 海外実績積み上げ



志鷹社長

丸新志鷹建設（本社・富山県立山町、志鷹新樹社長）は、ネパール政府灌漑局から幹線水路など2件の工事、総額約40億円を受注した。昨年、12億円を受注した取水施設に続く工事。同社はブータンでも政府発注の国道工事の受注に日本企業として初めて成功しており、昨年2月からの海外での受注は国内実績を上回る60数億円に達することになる。

今回受注したのは、ネパール最大の河川、カルナリ川で始まった灌漑（かんがい）プロジェクトの幹線水路工事と支線水路工事。幹線水路工事（延長5・6キロ、工期48カ月）は新聞に入札公告され、10月末に同社ネパール支店と、中国2社、インド1社の4社が応札し、同社が日本円で30億円で落札した。関連して発注された支線水路工事（排水調整施設）は同社のほか、地元企業2社が参加して8月に入札。同社は3番札だったが、その後、上位2社が入札資格（施工能力など）がないことで失格となり、11月に入って

同社が8億円で落札者に決まった。同社は2011年2月、同灌漑プロジェクトの初弾工事となる取水口を12億円で受注、現在施工中だ。幹線水路は実質、その第2期工事で、同社は同プロジェクトの着工段階から2期工事まで中心にかかわっていくこととなる。今回の工事受注については、同社ネパール支店では「08年には首都カトマンズの上水道整備プロジェクトの一環となる道路工事を不穏な政治と治安情勢の中で完成させたことと、先行して施工している取水口工事の実績がネパール政

カルナリ川とタライ平原の出合で施工中の灌漑取水口



府や灌漑局の高い評価を得ていた。地元で培ってきたコスト競争力も落札に寄与した」とみている。立山連峰での砂防堰堤など土木工事を得意とする同社は、実績を積み上げたい。日本の地域建設業の疲弊は加速しており、4年後にはそつした経営環境を補完できるような体制を（海外で）何とか構築しておきたい」と話している。

は、地元立山町とエベレストの麓の村にある小学校同士の交流が縁で1992年にネパール支店を開設。以後20年にわたる民間交流で築いた人脈や信頼関係をベースにネパールだけでなくブータンでの工事受注にも成功している。

志鷹社長は今回の受注について「4年後の竣工までしっかり仕事を仕上げ、

